

第5回「^{あす}明日の仙台塩釜港を考える懇談会」の概要

<懇談会の趣旨>

県では、学識経験者や港湾関係者等を構成員とする「明日の仙台塩釜港を考える懇談会」を立ち上げ、今後の仙台塩釜港の目指すべきあり方について検討を進めてきました。

昨年12月に開催した第4回懇談会での議論を踏まえ、仙台塩釜港の将来像・目指すべき方向性を取りまとめる、第5回懇談会を以下のとおり開催しました。

<概要>

- ・日 時：令和6年3月25日（月）午後1時30分から午後3時00分まで
- ・場 所：仙台国際センター 会議棟2階大会議室「橘」
- ・出席者：学識経験者、経済団体、港湾関係者、国・関係市町（全29名）対面・web
- ・内 容：今後の仙台塩釜港における方向性の最終意見の取りまとめ
 - 仙台塩釜港の将来像・目指すべき方向性
 - 明日の仙台塩釜港を考える懇談会 報告書 など

<明日の仙台塩釜港を考える懇談会のとりまとめに関する主な意見>

【明日の仙台塩釜港を考える懇談会 報告書】

1. p22「仙台塩釜港の将来像・目指すべき方向性」が懇談会の検討結果がコンパクトにまとまっているので、「はじめに」の後に提示すべき。
2. p22「仙台塩釜港の将来像・目指すべき方向性」の図は、海外も含んだ広範囲な表現としてはどうか。
3. p14「仙台塩釜港の課題（「観光・交流」に関する課題）」には、クルーズ船の写真を挿入するなど視覚的にわかりやすい工夫がほしい。
4. インフラ整備のハード対策に加えて、港湾を使ってもらうためのPR活動などのソフト対策について追加記載があると尚良い。

【パンフレットの作成】

1. 懇談会の報告書及び概要版とは別に、記載内容をコンパクトにして絵や写真などを使って分かりやすくまとめた県民向けのパンフレット作成してみてはどうか。

（開催状況）



（次ページ有）

＜将来像実現に向けた今後の進め方に関する主な意見＞

【港湾計画・長期構想に向けて】

1. 懇談会での検討内容を、港湾計画・長期構想へどのように反映するかが非常に重要な点である。
2. 既定計画に定められている諸々の計画内容を着実に実行することが不可欠である。

【観光・交流】

1. 懇談会に続く今後の検討にあたっては、クルーズ船寄港によりもたらされる経済効果を具体的金額で示し、寄港によるメリットを可視化することで、県民の理解を促すことも必要ではないか。
2. 観光・交流について、ソフト的な分野での連携が不可欠であり、今後の実行体制がどのようになるのかが気がりである。にぎわいづくりの面では、各関係者との連携が不可欠であるため協力をお願いしたい。

【その他】

1. 将来像・目指すべき方向性が複数示された中、環境に関わることや、港湾のDXなど、既に差し迫っているテーマがあるので、可能な限り優先順位をつけて、早急に対処すべき課題について、いち早く取り組んでほしい。
2. 将来像の実現には、インフラ整備(ハード面)だけでなく、港湾の限られた土地をどのように活用するのか関係者の利害調整をする等、ソフト面からの検討も要する。
3. 10～20年後には社会情勢が大きく変わっている可能性があるため、目指すべき方向性についてもタイミングを見てアップデートする必要があると考える。